資料４－１　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	育てる1　笑顔あふれる親子が育つまちプロジェクト	主管課	こども未来課	関係課	福祉総務課、保育課、健康づくり推進課

取り組みの方向	地域の子育てネットワーク形成

取り組みの展開

	STEP1：ネットワークの地盤形成		STEP2：ネットワークの形成・活動支援		STEP3：ネットワークの拡大	
内容	地域の子育て支援団体と行政との連携による事業や親子と地域の交流の場づくり等、子育てネットワークの地盤となる関係づくりを進めます。		市民や子育て支援団体による子育てネットワークの形成を支援するとともに、自主的な活動に対しての支援をします。		地域や事業者等との多様な協力関係づくりへの支援により、子育てネットワークのつながりと取り組みの拡大を図ります。	
関連実施計画	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況
	保育士確保対策事業	B				
	保育士雇用環境改善事業	B				
			子育て支援センター運営経費	C		
			あやせ流つなぐ支援	C		
①主管課による一次評価	STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	C	STEP3の進捗状況	
	【1．達成状況】 子育て支援センターにおいて、年2回の会議を実施し、情報交換をすることで子育て支援団体との関係づくりを行っていたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、実施できなくなった。 また、子育てネットワークを支える保育園については、待機児童の解消に向け、保育士の雇用促進に努め、新規雇用の保育士30人を確保することができた。		【1．達成状況】 子育て支援センターにおいては、新型コロナウイルスの感染拡大により、子育て支援団体との会議や子育て支援団体による交流の場の実施ができなかった。 また、綾瀬流つなぐ支援についても、新型コロナウイルスの影響を受け、団体との繋がりが希薄となってしまった。		【1．達成状況】	
	【2－1．課題】 少子化に加え、幼稚園などの入園の低年齢化が進み、子育て団体が実施している交流の場に参加する親子が減っている。また、家庭で過ごしている親子への交流の場の周知が困難である。 子育てネットワークを支える観点から、保育園の待機児童の解消を図る必要がある。		【2－1．課題】 交流の場が実施できなかったことで、事業の継続が困難となり、活動を終了した子育て支援団体が増えている状況にある。 団体との繋がりを再度構築するとともに、支援が必要な全ての子ども、子育て家庭が、必要な支援を受けられるよう、見守りを進めていく必要がある。		【2－1．課題】	
	【2－2．課題への対応】 お互いのイベントへの参加や情報提供などを行うことで、地域の交流の場の周知を図り、親子の参加を促す。 また、保育園の待機児童の解消に向け、引き続き保育士の雇用促進及び処遇改善を図る。		【2－2．課題への対応】 活動を休止していた子育て支援団体の活動の場へ出向き、現状の把握をするとともに、活動の支援をする。 また、綾瀬流つなぐ支援においては、支援が必要な子どもや家庭に対し、引き続き継続的な支援を実施していく必要がある。		【2－2．課題への対応】	
②企画課による二次評価	STEP1の進捗状況	C	STEP2の進捗状況	C	STEP3の進捗状況	
	新型コロナウイルスの感染拡大により、実施できなかった会議等の情報交換を実施し、引き続き子育て支援センターを中心とした地域の子育て支援団体とのネットワーク形成を進め、子育ての孤立や負担感の解消に努めること。		新型コロナウイルスの感染拡大により、交流の場が実施できずに事業継続が困難となっている子育て支援団体に対して、活動の場へ出向いての状況把握等を行うことは有効な支援と考えられる。引き続きネットワーク形成の活動支援に努めること。			
③外部評価	STEP1～3の進捗状況　　（評価：　C　）					
	【評価コメント】 コロナ禍で工夫をして事業に取り組んでいるが、会議等の開催や子育て支援団体のネットワーク化が遅れている状況にあることからC評価とした。 【要望・意見】 ○　引き続き、地域のネットワーク形成を図るとともに、民生委員・児童委員、社会福祉協議会等の多様な主体と連携を図り、地域ぐるみで子育ての活動ができるように進めることが大切。 ○　保育士雇用環境改善事業については、保育士への研修促進というようなことにもぜひ配慮していただきたい。 ○　「明るい子育て」「待機児童の解消」というテーマは、否定意見がないので予算がつきやすく、評価されないまま継続してしまう傾向があり、目的達成につながらない可能性がある。「明るい」というイメージだけで先行していて、地に足がつかない政策になる可能性があることを留意いただきたい。					

【進捗状況A～D】
A：順調に推移した（目標達成又は進捗している）
B：一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）
D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）

資料４－１　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	育てる1　笑顔あふれる親子が育つまちプロジェクト	主管課	こども未来課	関係課	福祉総務課、保育課、健康づくり推進課

取り組みの方向	非認知能力の向上支援

取り組みの展開

	STEP1：取り組みの普及	STEP2：家庭での取り組みの普及	STEP3：取り組みの拡大
内容	行政を主体とした非認知能力向上のための講座の開催や保護者への理解促進により、非認知能力の普及啓発を図ります。	各家庭で取り組める非認知能力の向上に向けた取り組みへの支援を進め、自発的・継続的に取り組みが行われる仕組みづくりを進めます。	地域や市民団体、企業等と連携した、より発展的な非認知能力の向上の取り組みが行われる仕組みや環境づくりを進めます。

関連実施計画

実施計画事業名	達成状況
非認知能力向上事業	B

実施計画事業名	達成状況

実施計画事業名	達成状況

①　主管課による一次評価

STEP1の進捗状況	B

【1．達成状況】
　1～2歳に向けた基礎となる親子のコミュニケーション講座の開催（5回講座）と3歳～未就学に向けた集団を意識したコミュニケーション講座（1回講座）の開催を行った。
　1～2歳の講座では、各回の講座終了後から次の講座までの間に自宅でのワークを実践することで、参加者自身がうまくできたこととできなかったことを理解し、講師からのアドバイスをもらっている。

【2－1．課題】
　講座に参加できる人数が限られているため、より多くの親子に非認知能力の大切さについて伝えていく必要がある。
　受講後、各家庭で学んだことを実践できているのか把握する必要がある。
　保育園に勤務する保育士自身が非認知能力について理解する必要がある。

【2－2．課題への対応】
　今まで講座を受講した方にメッセンジャーとしてコミュニケーション力を伝える活動の場を作るとともにリーフレットや動画を作成し、非認知能力の周知を図る。
　受講2～3か月後にグループインタビューを実施することで、学びの振り返りと各家庭での実践の様子を確認する。
　家庭だけでなく保育士から非認知能力を育くめるよう保育士研修を実施する。

STEP2の進捗状況	B

【1．達成状況】
　非認知能力の各家庭での取り組みとして、年齢に合わせたリーフレットを2種類作成し、健康づくり推進課の協力を得て、1歳6か月健診と3歳6か月健診でリーフレットの配布をスタートした。リーフレットに非認知能力についての動画が見れるように二次元コードを貼付している。
　家庭でできない部分を保育士が各保育園で非認知能力の向上に取組んでいる。

【2－1．課題】
　コロナ禍でメッセンジャーによる未受講やリーフレットを配布できていない親子へ非認知能力の大切さを伝える活動の場を作ることができていない。

【2－2．課題への対応】
　外部での活動は難しいが、新たなコミュニケーション講座が始まる時に受講したことでどのような変化があったか等、メッセンジャーとして伝える場を作り、活動を開始する。

STEP3の進捗状況	

【1．達成状況】

【2－1．課題】

【2－2．課題への対応】

②　企画課による二次評価

STEP1の進捗状況	B

　非認知能力の向上支援は、自ら学ぶ姿勢を育むなど、「生きる力」を身に付けるにあたって有効な施策であると考えられる。また、グループインタビューの実施は、理解促進と実践に効果的であると思われるため、引き続き保護者への理解促進と実践を促すよう検討を進めること。
　なお、保育士を通じた非認知能力の向上についても、波及効果が期待できるので引き続き検討を進めていただきたい。

STEP2の進捗状況	B

　非認知能力向上の講座に参加することができない子育て世帯に対して、リーフレットでの啓発や動画の配信は有効であると考えられるため、継続して実施していただきたい。
　なお、講座の受講者がメッセンジャーとして地域へ波及させるのも有効な手法なので、機会を捉えて自発的・継続的な仕組みづくりを進めること。

STEP3の進捗状況	

③　外部評価

STEP1～3の進捗状況　　（評価：　B　）

【評価コメント】
　講座の周知方法に工夫が必要であるが一定の進捗があることからB評価とした。

【要望・意見】
○　お父さん、お母さんに受講してもらい、その子その子の持ってる力を引き出して欲しいと思う。
○　一般市民も含め、令和6年度から妊娠中の子育て世帯へ伝えていくことはとても良い。受講後の満足度を指標化し効果判定していってはどうか。
○　広報をどのように実施していくかをよく検討した方がよい。効果的な情報発信について、情報の受け手にしっかり受信されるように工夫していく必要がある。受信主義の広報行政に十分留意して取り組みを進めていただきたい。

【進捗状況A～D】
A：順調に推移した（目標達成又は進捗している）　　B：一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）　　D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）

資料４－１　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	育てる3　未来を支える地域コミュニティの仕組みづくりプロジェクト	主管課	市民活動推進課	関係課	福祉総務課・高齢介護課・生涯学習課

取り組みの方向	自治(会)機能の強化・充実

取り組みの展開

	STEP1：負担の軽減		STEP2：仕組みの見直し		STEP3：自治会への新たな支援	
内容	自治会の負担軽減につながる仕組みづくりや取り組みにより、無理なく活動ができる環境づくりを進めます。		持続性ある活動に向けて、より実情に即し、効果的な自治会運営ができるための体制づくり、仕組みの転換への支援をします。		地域おこし等地域の活性化につながる発展的な活動ができる環境づくり、実施への支援をします。	
関連実施計画	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況
	自治会ホームページ作成経費に対する補助事業	B				

①　主管課による一次評価						
	STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	B	STEP3の進捗状況	
	【1．達成状況】 コロナ禍における自治会の新たな情報共有手段及び自治会活動を広く周知するために自治会ホームページ作成にかかる補助事業を行い、R3年度は2自治会にてホームページを作成した。また、作成したホームページについて自治会長連絡協議会の中で情報共有を行い、R5年度は1自治会の希望があり、予算計上を行った。その他に現在のところ2自治会から作成希望の声を聞いている。		【1．達成状況】 自治会の役員間において情報共有手段としてLINEの活用状況を調査を行った。 役員間で情報共有及び今後の引継ぎのためにLINEの活用している事例や、自治会役員マニュアルを作成している事例、自治会費の口座振込での集金など、自治会によって独自の事例があるため、そのような事例を自治会長連絡協議会の中で情報共有するとともに、R5の実施計画で各自治会の負担軽減につなげていく。		【1．達成状況】
	【2－1．課題】 ホームページの作成及び運用に当たり、自治会内での人材の確保が困難。		【2－1．課題】 各自治会においてその自治会に合った運営を行っているため、他自治会の先進事例を共有した後で、各自治会に適した実施方法への変換が必要となる。		【2－1．課題】	
	【2－2．課題への対応】 人材確保の方法や、更新方法などの自治会内での仕組みづくりについて、すでにHPを作成・運用している自治会より各自治会へ情報共有を行っていく。		【2－2．課題への対応】 各自治会が普段行っていることが、他の自治会では貴重な意見になる可能性があるので、そのような事例を広く拾い上げて情報共有を図りたい。		【2－2．課題への対応】	

②企画課による二次評価						
	STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	C	STEP3の進捗状況	
	自治会の負担軽減がうまくいっている好事例について、他の自治会へ情報共有していくのは有効であるため、引き続き自治会の負担軽減につながる仕組みづくりや取り組みを検討していくこと。また、併せて地域理解の促進・啓発を進めるとともに、担い手の育成・発掘支援を検討していくこと。		自治会でのLINEの活用や口座振込での集金等の先進事例は、負担軽減に有効なものと考えられるため、引き続き事例の収集と情報共有に努めること。 また、先進事例の情報共有にあたっては、県内だけでなく、他県の事例も積極的に取り入れていくように検討すること。 なお、自治会への情報共有だけでなく、行政主導での「効率的な自治会運営ができるための体制づくり、仕組みの転換への支援策」も併せて検討すること。			

③　外部評価	STEP1～3の進捗状況　　（評価：　B　）
	【評価コメント】 コロナ禍で自治会のホームページ作成の支援を行うなど、一定の進捗があることからB評価とした。 【要望・意見】 ○　先進事例や他の自治会の取り組みの情報共有、自治会の存在意義の明確化と啓発、自治会未加入者や若い世代、高齢化等の理由で自治会を辞められた方等の多様な意見の集約の3点が地域コミュニティーを良くしていくことに繋がるので、取り組みに注力してもらいたい。

【進捗状況A～D】
A：順調に推移した（目標達成又は進捗している）　　B：一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）　　D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）

資料４－１　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	育てる3　未来を支える地域コミュニティの仕組みづくりプロジェクト	主管課	市民活動推進課	関係課	福祉総務課・高齢介護課・生涯学習課

取り組みの方向	市民活動団体等の一層の活性化

取り組みの展開

	STEP1：活動・立ち上げ支援		STEP2：共創の場づくり		STEP3：新たな共創への支援	
内容	地域課題の解決に取り組む市民活動団体の立ち上げや活動への支援の充実を図ります。		共創の場による新たなパートナーシップ形成や、自主的な活動への支援の仕組みづくりを進めます。		共創の場から生まれた新たな組織や活動に対しての支援を充実させ、自主的な活動の活性化を図ります。	
関連実施計画	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況
	市民活動応援補助金（きらめき補助金）	B	市民協働事業	B		
①　主管課による一次評価	STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	B	STEP3の進捗状況	
	【1．達成状況】 ・きらめき補助金では市民活動団体の育成及び市民活動の活性化を図るため、地域社会に有益で公共性の高い事業を実施する団体に対し、事業にかかる費用の一部を助成することで市民活動団体の立ち上げ支援を行っている。その中で、補助団体の現在までの継続率については71%となっている。また、きらめき補助金については基準点以上を獲得した団体が多く、予算の都合で補助金が交付できなった団体があったためR4より補助金の予算の増額を行った。 ・市民活動団体アンケートを実施した。 ・市民活動センターを拠点とした新たなネットワーク・交流促進の仕組みづくりとして、市民活動を体験するチャレンジボランティアについて、これまで1日の体験だったが、より深く市民活動を知ることを目的とした3～4カ月程度体験できる機会を設けた。		【1．達成状況】 　市民活動を行うものと、市民、事業者及び市が良きパートナーとして協力し合う、市民協働事業についてはこれまで41事業を実施した。また、R3，4年度ににきらめき補助金を受け、R5年度に市民協働事業にて事業を実施する団体も出ている。		【1．達成状況】	
	【2－1．課題】 ・きらめき補助金については申請団体数が減少傾向にある。アンケートの結果からもきらめき補助金を知らなかったという回答が18%あった。		【2－1．課題】 ・行政と市民活動団体という異なる組織において、その運営方法や立場・主張などには違いがあり、その違いから行政提案型事業の提案に至らないことが考えられる。		【2－1．課題】	
	【2－2．課題への対応】 ・アンケートの結果をもとにきらめき補助金の企画書提出期間がこれまで1カ月程度だったが、提出期間の延長を検討するなど、より申請のしやすい制度をR5年度内に目指す。		【2－2．課題への対応】 ・市民協働事業研修会において市民活動団体と行政の違いについて理解を深めることを目指すような研修内容を検討する。		【2－2．課題への対応】	
②　企画課による二次評価	STEP1の進捗状況	C	STEP2の進捗状況	C	STEP3の進捗状況	
	プロジェクトの主な取り組みのうち、「企業等との協力関係づくりの支援」「市民活動センターを拠点とした新たなネットワーク・交流促進の仕組みづくり」「民間空きスペース等とのマッチングによる活動の場づくりへの支援」について、引き続き検討を進めていくこと。		市民活動団体と行政の違い（運営方法、立場・主張等）について、理解を深める研修の実施により、共創の場づくりを進めていただきたい。			
③　外部評価	STEP1～3の進捗状況　　（評価：　B　）					
	【評価コメント】 　きらめき補助金の交付を行うなど、一定の進捗があることからB評価とした。 【要望・意見】 ○　きらめき補助金制度の活用について、積極的に周知が必要。 ○　明確な目標を設定したうえで、どのように目標を達成するかを考えて、新しい手法を積み重ねていくことが必要。 ○　市民活動団体の方が高齢化している中、若手の人材育成・発掘のために、ボランティア体験（若手人材育成塾）を開催していただくとよい。 ○　市民活動センターを拠点とした新たなネットワーク交流促進の仕組みづくりが必要という問題意識を持って、さらなる取り組みが必要。 ○　市民活動推進委員会を中心に、関係課も含めて行政の中での横断的な取り組みが必要。					

【進捗状況A～D】
A：順調に推移した（目標達成又は進捗している）　　B：一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）　　D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）

資料４－１　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	育てる3　未来を支える地域コミュニティの仕組みづくりプロジェクト	主管課	市民活動推進課	関係課	福祉総務課・高齢介護課・生涯学習課

取り組みの方向	多様な市民活動の仕組みづくり

取り組みの展開

	STEP1：仕組みの構築		STEP2：連携の拡大		STEP3：取り組みの普及拡大	
内容	多様な形で市民活動を実施・参加できる新たな仕組みづくりによる、市民活動の活性化を図ります。		アクティブ・シニア応援窓口、コミュニティ活動のコーディネーター等との連携による取り組みの拡大を図ります。		新たな層への取り組みの普及を進め、誰もが自らに合った形で多種多様な活動に参加できる環境づくりを進めます。	
関連実施計画	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況
	市民活動センターあやせ	B				
	あやせ大納涼祭	B				
	地域学校協働活動推進員の配置	B				

①　主管課による一次評価

STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況		STEP3の進捗状況	
【1．達成状況】 ・市民活動・地域活動が活発に行われる環境を整備し、市民活動団体に対し情報提供や研修、団体運営の活動相談などの支援を行うため、市民活動センターあやせを設置、運営する中でR4年度は4,332名の利用があった。また、R4年度末には167団体の登録があった。古くなった機器を計画的に更新することで、704件（+125件）の利用があった。 ・人と人との交流機会の創出、地域への愛着醸成を目指すため、会場を変更しリニューアルしたあやせ大納涼祭を開催し、更なる地域コミュニティの活性化を目指し、自治会ほか多くの団体が実行委員を務めるあやせ大納涼祭の中で市民団体PRブースを設置し、広く市民に対して市民活動団体のPRを行うとともに出展団体同士もお互いの活動を知ることにつながった。				【1．達成状況】	
【2－1．課題】 ・コロナ禍による利用者数の減少。 ・自治会などの地域の様々な団体から選出された実行委員が市民活動ブースの企画等を行うことで市民活動を身近に感じてもらうなど市民活動についてのPRはできたが、コーディネーターが介在しないため連携までには至っていない。				【2－1．課題】	
【2－2．課題への対応】 ・市民活動団体を広く市民にPRする様々な方法を活用し、市民活動について周知を図る。 ・あやせ大納涼祭のような団体が広く市民にPRする場や、団体同士がそれぞれの活動を知ることのできる機会を創出し、そこにコーディネート役として市民活動センターあやせが介在できるような仕組みを検討する。				【2－2．課題への対応】	

②　企画課による二次評価

STEP1の進捗状況	C	STEP2の進捗状況		STEP3の進捗状況	
多様な形で市民活動を実施・参加できる新たな仕組みづくりによる市民活動の活性化を図ること。 なお、市民活動のコーディネート機能の構築、アクティブ・シニア応援窓口やコミュニティ活動のコーディネーターとの連携について、市民活動の推進に相乗効果が期待できるので、連携方法を検討していくこと。					

③　外部評価

STEP1～3の進捗状況　　（評価：　B　）

【評価コメント】
市民活動団体について、幅広く市民に周知を図ることが必要ではあるが、一定の進捗があることからB評価とした。

【要望・意見】
○　多様な形で市民活動を実施・参加できる新たな仕組みづくりによる市民活動の活性化を図ることは、今後さらなる取り組みが必要。
○　市民活動団体を広く市民にPRする様々な方法を活用し、市民活動について周知を図ることに加えて、行政内部・教育関係機関との情報共有や連携が必要。

【進捗状況A～D】
A：順調に推移した（目標達成又は進捗している）
B：一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）
D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）

資料４－２　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	稼ぐ3　あやせ農場プロジェクト	主管課	農業振興課	関係課	農業委員会事務局

取り組みの方向	稼ぐ農業の推進

取り組みの展開

	STEP1：仕組みづくり	STEP2：観光との連携の強化	STEP3：稼ぐ農業体制の構築
内容	農畜産物のブランド化の推進に向けた体制と仕組みづくりを進めます。	道の駅を拠点とした新たな直販所等の観光スポット化に向けた支援・仕組みづくりを進めます。	さらなる販路拡大とブランド化、「農」の魅力向上等に より、農業の「稼ぐ」体制を構築します。

関連実施計画	実施計画事業名	達成状況
STEP1	農産物利活用促進事業	C
	農家の労働力不足の解消を目的とした援農ボランティア養成事業	C
STEP2		
STEP3		

①主管課による一次評価		
	STEP1の進捗状況	C
STEP1	【1．達成状況】 JA、農業者に働きかけながら「綾瀬ブランド」構築のために必要な販売促進PRや出荷資材に対する支援、販路拡大に対して財政的支援を実施し、「稼ぐ農業」に資する事業を推進した。	
STEP1	【2－1．課題】 販売促進PRや出荷資材に対する支援、販路拡大に対して財政的支援を実施し、「稼ぐ農業」に資する事業を推進したが、知名度の拡大には至っていない。また、農業者の高齢化により作り手の減少が続き対応に苦慮している。	
STEP1	【2－2．課題への対応】 「菜速　あやせコーン」のほか、綾瀬市の地場産野菜の知名度向上のため、JAで作る加工品の販売や促進、6次産業化として既存のオリーブのほか、新たな品目を創っていく必要がある。	
	STEP2の進捗状況	C
STEP2	【1．達成状況】 綾瀬市の地場産野菜のPRに向け、朝市や県内スーパー等による販売促進活動を行った。また、川崎競馬において、菜速　あやせコーンを冠としたレースを開催し、トウモロコシのPR等、農産物イメージの底上げのための事業を行った。	
STEP2	【2－1．課題】 「綾瀬ブランド」構築のため、「綾瀬ブランド」「かながわブランド」に新たに認定又は登録されるための方策の検討や、綾瀬の地場産野菜を使用した市外スーパー等での販売促進活動、朝市での販売等PR活動等の新たな手法や道の駅で販売するための新たな名産品の創出が必要となっている。	
STEP2	【2－2．課題への対応】 JAや関係団体と連携し、綾瀬の農業をアピールするため商業観光課と連携した堪能祭での菜速　あやせコーンの販売会や、6次産業化に向けた現在相談を受けている品目により地場農産物の野菜を確保していく。	
	STEP3の進捗状況	C
STEP3	【1．達成状況】 令和4年度より市場出荷基準を満たさなかった農産物(以下、「規格外品」という。)を加工、販売目的で出荷する際の経費の一部を助成する農産物利活用促進事業を立ち上げ、稼ぐ農業の推進に取り組んでいる。令和5年度からはさらなる規格外品の活用を促すべく、JA、農業者団体、福祉事業所と試行事業としている。共同で事業に取り組み、新たな商品を開発するための調整を行っている。	
STEP3	【2－1．課題】 規格外品の活用による新たな商品開発後の販売ルートの確保や規格外野菜の野菜の搬送ルートの確保が必要である。	
STEP3	【2－2．課題への対応】 JA、農業者団体、個店、企業、卸売業者が共同で新商品を生み出す事業について、行政が調整役として支援を実施するとともに、財政的支援やPR方法、販売先の確保を行うための協議を行っている。	

②企画課による二次評価		
	STEP1の進捗状況	C
STEP1	主な取り組みの「市内外への販路拡大」について、より具体的(「誰に(主な顧客層：ニーズ)」「どこに(販売経路：市内外)」)に検討を進めること。また、「高品質な農畜産物の積極的なPR」についても、「どのようなPR手法」を進めていくのかを併せて検討していく必要性がある。	
	STEP2の進捗状況	C
STEP2	綾瀬ブランドについて、認定しただけでは意味がなく、ブランド認定後に「どのようにPRしていくのか」の検討を進めること。また、「新たな名産品」の創出については、新たに整備予定の「道の駅」での販売を見据えて商業観光課と引き続き連携すること。 なお、農家が「今後、どのように稼ぐ農業を実現していきたいか」といったニーズをしっかりと捉えていくこと。	
	STEP3の進捗状況	C
STEP3	今後、更なる販路拡大やブランド化、6次産業化を進めていくにあたっては、県の施策(ブランド認定制度、6次産業化の支援制度等)との連携は有効(市の施策との相乗効果)と考えられるため、県との連携も検討していくこと。	

③外部評価	
	STEP1～3の進捗状況　　(評価：　B　)
	【評価コメント】 農畜産物のブランド化推進について、一定の進捗があることからB評価とした。 【要望・意見】 ○　「菜速 あやせコーン」は販売場所が限定されており、食べる機会がない。知名度の向上には、生産量を増やし、まずは食べてもらうことが必要。 ○　綾瀬は、高速道路の入口が近いから、大都市へも販売できる利点があるので有効に活用すること。 ○　整備予定の道の駅での農畜産物の販売について、今の準備段階から様々な方法を試みていくこと。 ○　ブランド化もさることながら、農畜産物の付加価値をどのように高めていくかを考えていくことが必要。 ○　市内の飲食店や商業観光課等との協力・連携は大切。 ○　綾瀬産の農畜産物の知名度を向上させるには、県の施策との連携をさらに意識して取り組んでいくことが大切。 ○　SNS等を通して知名度も高めていくようなことを商業観光課とも連携して考えられるとよい。 ○　目久尻川流域の文化財活用で、神社仏閣を巡りながら農業体験も楽しんでもらうプログラムができたらよい。

【進捗率A～D】
A：順調に推移した(目標達成又は進捗している)　　B：一定の進捗がある(目標達成に向け一定の進捗がある)
C：進捗が遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)　　D：進捗が大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)

資料４－２　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	稼ぐ３　あやせ農場プロジェクト	主管課	農業振興課	関係課	―

取り組みの方向	農業への新規参入の支援

取り組みの展開

	STEP1：サポート体制の整備	STEP2：営農活動の持続に向けた支援	STEP3：担い手としての定着・活躍支援
内容	地域によるサポート体制を整備し、新規就農しやすい仕組みづくりを進めます。	新規就農者の営農活動への支援体制を構築し、継続して営農できる環境づくりを進めます。	就農後に早いうちから担い手として活躍できる環境づくりを進めます。
関連実施計画	実施計画事業名：利用集積の拡大事業　達成状況：C	実施計画事業名：就農者の育成を支援するサポーター農家への支援　達成状況：C	実施計画事業名：　達成状況：
①主管課による一次評価	STEP1の進捗状況：B 【1．達成状況】 農業アカデミー主催の就農相談会に参加し、綾瀬市での就農に関する情報提供を行うことで新規就農者の確保に向けて積極的に動いている。 新規就農者が農業技術・経営ノウハウを身に付けるとともに、綾瀬市で就農することの安心感向上、担い手の確保、定着を目的にサポーター農家による支援制度の構築や、援農ボランティアの養成等を行っている。	STEP2の進捗状況：B 【1．達成状況】 サポーター農家制度を構築して数年が経過し、サポーター農家数は増加している。また、援農ボランティア制度において、JA職員や農業振興課職員からの指導により知識と経験を有した者が増え、農業者への支援制度が充実し、繁忙期の人員不足の解消につながっている。	STEP3の進捗状況：B 【1．達成状況】 農業経営が安定し、以前は新規就農者だった者がサポーター農家となって、次世代の新規就農者を支援するような好循環のサイクルが機能し始めている。 新規就農者が周囲のサポートを受けながら知識、技術を習得しながら営農している。
	【2－1．課題】 新規就農者が農業経営を安定させるためには、経営面積の拡大（農地の確保）が必要である。また、本市では、農業者数の減少に伴い遊休農地が増加している状況にあり、耕作放棄地となった農地を原状回復するには相当な労力が必要なため、早急に対処していく必要がある。	【2－1．課題】 サポーター農家の新規就農者支援は、自身の営農活動を阻害することになってしまうので負担感が生じており、サポーター農家のモチベーションが低下してしまっている状況にある。	【2－1．課題】 認定農業者となるには、本市では一定の農業経営の目標（耕種農家の例：農業所得550万円、経営面積2ha等）を設定する必要がある。経営目標の達成に向けて規模拡大を図るには、農業機械（トラクター等）を導入していく必要があるが、その資金面の確保が課題となってしまっている。また、就農直後は経済的にも不安定である。
	【2－2．課題への対応】 農業委員会による農地パトロールや定期的な巡回により、遊休農地の増加を防ぐとともに、利用集積制度を活用し高齢化等により耕作ができなくなった地権者と耕作者（新規就農者）のマッチングを積極的に行う。また、援農ボランティアの養成を継続的に行ない、市農業振興課、JAさがみ綾瀬営農経済センター等の指導員により実践的な農業技術を行い、農繁期に市内農家の農作業サポートとして援農ボランティアとして派遣できるような研修を行う。 R5年度から遊休地の有効活用を目的に、耕畜連携事業による飼料米生育を実施していく。	【2－2．課題への対応】 新規就農者を支援したサポーター農家へ助成事業（年50千円）を実施することで、サポートに対するインセンティブを高める。	【2－2．課題への対応】 R5年度より、認定農業者がトラクター等の農業機械を導入するにあたって、その必要な経費の一部を補助する制度（補助率1/2以内、上限50万円）を実施し、担い手としての定着を支援する。 県が行う就農直後の農業者に対する経済的支援に上乗せする方法で、市独自で財政支援を行っている。
②企画課による二次評価	STEP1の進捗状況：B 新規就農者が適切に農業技術・経営ノウハウを身に付けられる体制が構築できつつある。体制整備と併せて、新規就農者をしっかりと確保していく必要があるため、引き続き農業アカデミーとの連携を図るとともに、就農希望者への情報提供に努めること。	STEP2の進捗状況：B サポーター農家が負担感を感じてしまっているのは、新規就農者の支援に影響が生じてしまうと考えられる。サポーター農家の確保に努めるとともに、負担感の解消を図り、地域農業が継続的に発展できるよう引き続き対策を講じていくこと。	STEP3の進捗状況：B 就農してから一人前の農家になるまでのステップに応じた支援体制を構築できつつある。引き続き新規就農者が担い手として、確実に定着していくための支援を実施していくこと。
③外部評価	STEP1～3の進捗状況　（評価：B）		

【評価コメント】
新規就農者を支援する体制の構築に一定の進捗があることからB評価とした。

【要望・意見】
○　農家が高齢化して耕作放棄地が増えてしまう状況において、労力のかからない農作物の生産を市が援助している地域もあるので参考にすること。
○　成功した新規就農者の事例をもとに、次の人がまた目指して来るというサイクルを機能させる必要がある。
○　新規就農者が適切に農業技術、経営ノウハウを身につけ、数年後に自立した農業経営ができるような環境整備をJAや商工会とも協力して取り組むこと。

【進捗率A～D】
A：順調に推移した(目標達成又は進捗している)　　B：一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）　　D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）

資料４－１　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	稼ぐ4 「ロケのまち　あやせ」ならでは観光プロジェクト	主管課	商業観光課	関係課	―

取り組みの方向	ロケツーリズムの推進

取り組みの展開

	STEP1：誘致体制の見直し	STEP2：誘客力の強化	STEP3：シティプロモーションへの展開
内容	ロケ候補地の掘り出しやロケ受け入れ・連携体制等の見直しによる、継続的なロケ誘致に向けた体制強化を図ります。	観光的魅力を感じるロケ地の整備・仕組みづくりにより、ロケツーリズムの誘客促進を図ります。	「ロケのまち　あやせ」によるシティプロモーションの全国展開・発信により、ロケ誘致・誘客強化の好循環を生み出します。

関連実施計画

実施計画事業名	達成状況
WEBロケハンページ構築事業	B

①　主管課による一次評価

STEP1の進捗状況	B

【1．達成状況】
　新たなロケサイト開設により目標を上回る閲覧数や、制作関係者からのこれまでになかった掲載施設への問い合わせがあり、反響と一定の効果を感じている。また、市内で撮影された映画の公開時期に合わせたタイアップ事業を実施し、本市の知名度向上、市内への誘客をはじめロケーションサービスの連携体制の強化に繋げることができた。

【2－1．課題】
　近年ではロケ誘致に取り組む自治体が増えており、競争性が増す中、市内のロケ地は市役所内での撮影が多い。ロケツーリズムの誘客を見据えていく上で、制作関係者の目に留まるような魅力的なロケ地の掘り起こしと、発信力を強化していく必要がある。

【2－2．課題への対応】
　ロケ弁をはじめ撮影現場で活用してもらえる市内事業者の掘り起こしをするなど、市全体でロケを支える仕組み作りを更に進めるとともに、ロケサイトの更なる充実を図り、映像制作者へのアプローチを強化し、誘客力の促進を図る。

②企画課による二次評価

STEP1の進捗状況	B

　観光資源としてロケ地を活用するための誘致体制を構築できている。今後は、市外住民に観光的魅力を感じてもらうための仕組みを構築し、誘客力の強化を図ること。

③　外部評価

STEP1～3の進捗状況　　（評価：　B　）

【評価コメント】
　ロケ誘致に向けた体制強化に一定の進捗があることからB評価とした。

【要望・意見】
○　行政の施策が一般の人に伝わるかといった広報が何よりも重要。「綾瀬に行ってみよう」という行動変容を起こさせる必要がある。ロケ地マップを市外にいかに戦略的に周知するかがポイントである。
○　ロケ地マップは、消費者向けの広報媒体とし、綾瀬のロケ地を紹介し、「そこを訪ねてみましょう」というように、効果的にターゲットを狙っていく必要がある。また、紙媒体だけではなく、電子媒体を含めて、工夫していく必要があると思う。
○　綾瀬市におけるロケ誘致の強みをロケの制作会社に対しうまく情報発信していくという工夫をされるとよい。

【進捗状況A～D】
A：順調に推移した(目標達成又は進捗している)　　B：一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）　　D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）

資料４－１　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	稼ぐ4 「ロケのまち　あやせ」ならでは観光プロジェクト	主管課	商業観光課	関係課	—

取り組みの方向	市内資源の観光活用

取り組みの展開

	STEP1：連携体制の構築		STEP2：仕組みの定着の促進		STEP3：受け入れ体制の強化	
内容	市内観光資源の掘り起こしと連携体制の構築による、活用に向けた基盤づくりを進めます。		資源の融合・連携による観光の魅力の向上と地域・民間活力による観光の仕組みづくりを進めます。		観光に選ばれるまちとして人を受け入れる体制の強化、魅力向上への支援を強化します。	
関連実施計画	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況
	光・食・文化の祭典～Ayase Base side Festival～	C	観光アドバイザー事業	B		
	「菜速あやせコーン堪能祭」事業	C				
	分散型観光事業（びゅ～っとあやせ）	B				

① 主管課による一次評価

STEP1の進捗状況	C	STEP2の進捗状況	C	STEP3の進捗状況	
【1．達成状況】 新型コロナの影響で、開催が困難だったイベントを、令和4年度は計画どおりに開催ができ、一定の消費活動による経済効果を生み出し、市内商業の魅力を伝えることができた。しかし、農業者と連携体制が構築できた事業がある一方で、市内商業者や観光振興検討組織による連携体制づくりに課題があり、順調に進んでいるとまでは言えない状況にある。		【1．達成状況】 3年振りに「光・食・文化の祭典～Ayase Base side Festival～」を開催できたが、令和5年度に向けて企画から運営まですべてを民間委託する手法へ見直し、出店する市内事業者の出店意欲の向上につながればと考えている。 また、道の駅開設を見据え、これまでの観光事業を再構築するために、専門的知見を持つ、アドバイザーから、市内消費拡大へ向けた提案や助言を受け、既存事業見直しの参考にすることができた。		【1．達成状況】	
【2－1．課題】 イベント事業は、感染症の影響を受けやすく、食品衛生上のルールなどの専門性が年々高まっており、イベント自体を運営するハードルが上がっている。また、集客を目指す観光イベントにおいても、参加機会と販路拡大のチャンスなどと捉える意欲的な市内商業者が必ずしも多くはなく、観光事業を担う人材も不足しており、持続可能なイベントのあり方が課題に挙げられる。		【2－1．課題】 様々な観光事業を創出し、市内事業者にイベント参加してもらえるものの、稼ぐ仕組みが確立されたとまではいえない。また、本市観光事業を見直し、研究につなげるアドバイザー事業もイベント再開したタイミングにおいては、地域の実情を加味した助言も限られており、市としてもすべてのアドバイスに対応できるには至っていない。		【2－1．課題】	
【2－2．課題への対応】 民間事業者のノウハウを活かしイベントの外部委託化や、市内事業者にとどまらず人材を市外から呼び込んだり、商工会とも連携し、例えばセミナーなどの取り組みを通じて新たな人材の発掘が必要となってくる。		引き続き、観光事業を通じてアドバイザーの助言から仕組みづくりへのヒントをもらいつつ、地域における人づくりや組織づくりについて、他の地域での事例等を研究しながら、本市ならではの観光事業に向けて方向性を定めていくことが必要であると考えている。		【2－2．課題への対応】	

② 企画課による二次評価

STEP1の進捗状況	C	STEP2の進捗状況	C	STEP3の進捗状況	
市内資源の活用について、連携体制構築のもとで地域経済の活性化に資する観光集客イベントを開催できている。農商工（農業者、商業者、工業者）の連携は、それぞれの相乗効果が期待できるため、引き続き連携体制の構築の強化に努めること。		観光資源の融合・連携により、観光地としての魅力向上を図るために、引き続き観光アドバイザーの助言を得ながら有効な施策を検討していくこと。			

③ 外部評価

STEP1～3の進捗状況　　（評価：　C　）

【評価コメント】
戦略的広報に課題があり、地域を回遊するインフラ情報が決定的に不足している状況にあるため、進捗が遅れていることからC評価とした。

【要望・意見】
○　観光客が市内を回るにあたっての交通手段やインフラの整備、仕掛けが必要である。
○　観光政策は、やはりリピーターを増やさないと意味がない。「綾瀬にまた来よう」と思ってもらえることが大切。
○　貸し自転車等を整備し、どこで乗ってどこで乗り捨てても構わないような事業を検討してみてはどうか。

【進捗状況A～D】
A：順調に推移した（目標達成又は進捗している）
B：一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）
D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）

資料４－１　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	稼ぐ4 「ロケのまち　あやせ」ならでは観光プロジェクト	主管課	商業観光課	関係課	―

取り組みの方向	魅力ある商店や飲食店づくりと観光連携

取り組みの展開

	STEP1：商店等の支援の強化		STEP2：観光との連携構築		STEP3：観光連携への支援	
内容	魅力的な商店や飲食店づくり、創業支援や商品開発・販売等への支援をします。		魅力的な商店や飲食店、新商品開発等を観光による誘客に結び付ける仕組みにより、さらなる魅力の向上を図ります。		観光と連携した商店や飲食店の積極的な取り組みに対しての支援を強化します。	
関連実施計画	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況
	グルメ商品、土産品の開発支援事業	C	観光アドバイザー事業	B		
	魅力ある商店や飲食店づくりへの支援事業	B	「菜速あやせコーン堪能祭」事業	C		
	光・食・文化の祭典～Ayase Base side Festival～	C	分散型観光事業（びゅ～っとあやせ）	B		
	「菜速あやせコーン堪能祭」事業	C				

①　主管課による一次評価

STEP1の進捗状況	C	STEP2の進捗状況	C	STEP3の進捗状況	
【1．達成状況】 商品開発や創業にかかる補助金において、目標を上回ることはできなかったが、厳しい経営環境が続いている中、意欲的に取り組む商業者を支援し、魅力ある商品開発や販売促進に繋げることができた。また、市内創業等に向けての相談を複数受け、意欲のある前向きな創業者への意識醸成に寄与することができた。		【1．達成状況】 市内事業者がイベントに参加し、市内外からの誘客促進につながった結果、経済効果などの面から一定の成果が出ている。		【1．達成状況】	
【2－1．課題】 魅力ある商店や飲食店づくりや、新商品開発などへ結び付けるために補助金等の施策を実施しているが、実績として結びついているとまでは言えず、結果として支援が十分とはいえない状況にある。今後の仕組みづくりを見据えた場合、より意欲的な商業者や新商品の開発支援が急務である。		【2－1．課題】 観光との連携という視点においては、イベントをチャンスと捉え、運営側の一員として主体的に参画するという意識までは醸成できておらず、持続的な観光につながる仕組みづくりがまだ十分に構築できていない。		【2－1．課題】	
【2－2．課題への対応】 幅広い視点から多様な人材を呼び込み、商工団体組織とも連携してセミナーなどの啓発活動による新たな人材の発掘と同時に、商業者及び創業の支援に向けた市の取り組みについて、情報提供体制を強化する必要がある。		【2－2．課題への対応】 意欲的な市内事業者を中心に、観光につながる仕組みづくりが求められることに加えて、SNSなど様々なツールを活用した情報発信力を高めていく必要がある。また、専門家の意見も踏まえ既存の事業のリニューアルを行こなっていく必要がある。		【2－2．課題への対応】	

②　企画課による二次評価

STEP1の進捗状況	C	STEP2の進捗状況	C	STEP3の進捗状況	
創業支援や商品開発・販売等への支援は、市の魅力向上と市内消費の拡大に有効であるため、引き続き進めていただきたい。商業者の事業が安定するかは、経営に関する知識（経営、財務、人材育成、販路開拓等）の習得も重要なため、補助金交付と併せて重点的な支援をすること。		商店や飲食店、新商品等は、観光集客イベントと連携することで、市の魅力向上と市内消費拡大といった相乗効果が期待できるため、観光との連携構築に努めること。			

③　外部評価

STEP1～3の進捗状況　　（評価：　C　）

【評価コメント】
商業者の主体的に参画するという意識までは醸成できておらず、持続的な観光に繋がる商品づくりがまだ不十分とのことで課題があり、進捗が遅れている状況にあることからC評価とした。

【要望・意見】

【進捗状況A～D】
A：順調に推移した(目標達成又は進捗している)　　B：一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）　　D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）

資料４－１　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	支える1　アクティブ・シニア応援プロジェクト	主管課	高齢介護課	関係課	

取り組みの方向	元気高齢者の就労希望の実現

取り組みの展開

	STEP1：	STEP2：	STEP3：
内容	就労支援の普及拡大	アプローチの拡充	成功モデルの貯蓄・活用

関連実施計画	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況
	シルバー人材センター運営補助金	B				

①　主管課による一次評価

STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	B	STEP3の進捗状況	

【1．達成状況】
・求職者が希望する職種の求人を開拓するとともに、ジョブスポットあやせや、シルバー人材センターと連携し、求職者のニーズに合わせた就労支援を行った。また、企業のデータベース化を図り、効率的に希望する職種(地域)を紹介することができた。
・就労希望実現に向け、求人ニーズに高い職種のスキルアップ講習会を実施。
・シルバー人材センターへ運営補助金を交付し、高齢者の就業機会の増大、生きがいの充実を図った。

（実績）
アクティブ・シニア応援窓口（就労）でのマッチング件数：R3 77件、R4 102件
スキルアップ講習会：R3 10人、R4 4人
シルバー人材センター会員数：R3 623人、R4 619人

【1．達成状況】
・無関心層(アクティブ・シニア応援窓口を知らない方)へのアプローチについては、65歳を迎えられた方にチラシを送付(介護保険証送付に合わせ)した。
・また、無関心層に加え、現役世代へのアプローチとして、綾瀬タウンヒルズショッピングセンターのアクティブ・シニア応援窓口(社会参加)において、適宜窓口(就労支援)を周知、案内した。

【2－1．課題】
　ホワイトカラーの仕事を希望する方が多いが、求人数が足りていない。

【2－1．課題】
　人生100歳時代と言われる中、社会背景・情勢(実質賃金の低下、雇用形態))の変化に伴い、定年後のライフスタイルも大きな変化が迫られており、現役世代においてセカンドキャリア(経済的自立、社会参加)に対する意識向上は不可欠となっている。

【2－2．課題への対応】
　ホワイトカラー層の求人開拓について、企業訪問の強化及びジョブスポットあやせ、シルバー人材センターとの定例的な情報交換（週1回）を行い、各機関が保有する最新の求人情報等の情報共有を行い、よりニーズに合ったマッチングの強化を図る。

【2－2．課題への対応】
・令和5年度において、セカンドキャリア形成支援に向け、コーディネーター(アクティブ窓口)や企業へのヒアリング等を行い、必要な支援を検討する。

②　企画課による二次評価

STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	B	STEP3の進捗状況	

　アクティブ・シニア応援窓口と他の施策（ジョブスポットあやせやシルバー人材センター等）との連携は、就労支援体制の普及・拡大に有効なものと考えられる。引き続き連携体制を継続し、高齢者の就労希望の実現に努めていただきたい。

　無関心層へのアプローチとして、介護保険被保険者証へのチラシ同封及び綾瀬タウンヒルズショッピングセンターへのアクティブ・シニア応援窓口の設置は、非常に効果的な手法である。また、現役世代に対して、セカンドキャリア(経済的自立、社会参加)の支援を実施することは、早い段階からの働きかけとして有効な取り組みと考えられる。
　なお、高齢者向けに仕事説明会や見学会を企業・飲食店と連携して実施している自治体もあるので、市内で求人募集している企業・飲食店等と連携したアプローチ手法も検討すること。

③　外部評価

STEP1～3の進捗状況　　（評価：　B　）

【評価コメント】
　企業の求人と高齢者の求職ニーズをマッチングするなど、一定の進捗があることからB評価とした。

【要望・意見】
○　中小企業の求人情報や求職者のニーズを把握するにあたって、公的な機関である行政は一番信頼性が高い。求職者側のニーズを一番よく把握できる立場をうまく活用できている。
○　アクティブ・シニア応援窓口と他の施策（ジョブスポットあやせやシルバー人材センター等）との連携は就労支援体制の普及・拡大に有効。
○　高齢者向けに仕事説明会等を企業・飲食店と連携して実施している自治体もあるので、今後検討すること。

【進捗状況A～D】
A：順調に推移した(目標達成又は進捗している)　　B：一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）　　D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）

資料４－１　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	支える1　アクティブ・シニア応援プロジェクト	主管課	高齢介護課	関係課	

取り組みの方向	元気高齢者の地域等での活躍の場の創出

取り組みの展開

	STEP1：	STEP2：	STEP3：
内容	社会参加支援の普及拡大	交流の場の形成	支えあいによる多様な活動の実現

関連実施計画

実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況
高齢者の社会参加促進	B	高齢者の社会参加促進	B		
高齢者デジタル活用支援事業	B				

①　主管課による一次評価

STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	B	STEP3の進捗状況	
【1．達成状況】 ・R4年度から窓口をタウンヒルズへ移設したことにより、多くの方へ活動紹介、マッチングすることができ、社会参加を促進することができた。 ・初心者向けのスマホ教室、相談会を開催し、高齢者の新たな社会参加促進とデジタルデバイドの解消を図った。 （実績） アクティブ・シニア応援窓口（社会参加）でのマッチング件数：R3 351件、R4　9,620件 窓口来場者数：14,734人（R3実績なし） スマホ教室参加者数：253人（R3実績なし） スマホ相談会参加者数：76人（R3実績なし）		【1．達成状況】 ・R4年度から窓口をタウンヒルズへ移設したことにより、現役世代を含め多くの方へ活動紹介、マッチングすることができ、社会参加を促進することができた。 ・現役世代でも参加できるよう、窓口の立地を生かし、ボランティアセンターや地域活動センターが窓口で活動できるよう調整した。		【1．達成状況】	
【2－1．課題】 　アクティブ・シニア応援窓口、スマホ教室の開催等について、事業を知らない方が一定数いる。（周知不足）		【2－1．課題】 　現役世代でも参加できる活動（活動団体）の紹介が不足している。		【2－1．課題】	
【2－2．課題への対応】 　既存の媒体(広報やHP)だけなく、効果的な周知方法を検討し、周知を図る。		【2－2．課題への対応】 　不特定多数の方が行き交う窓口の立地を生かし、窓口を活動（ボランティアセンターや地域活動センター）の場として利用いただき、現役世代を含めた更なる社会参加の促進を図る。		【2－2．課題への対応】	

②　企画課による二次評価

STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	B	STEP3の進捗状況	
アクティブシニア応援窓口のタウンヒルズへの移転は、就労に対する無関心層へのアプローチとしても、事業の認知度向上にも有効であったと考えられる。 　今後も効果的な周知方法を検討のうえ、更なる事業の発展につなげていただきたい。		アクティブシニア応援窓口と各種施策（ボランティアセンターや地域活動センター等）の連携は、多様な世代への社会参加の促進として相乗効果が期待できるので、引き続き仕組みづくりを進めること。			

③　外部評価

STEP1～3の進捗状況　　（評価：　B　）

【評価コメント】
　高齢者の地域等での活躍（社会参加のマッチング）について、一定の進捗があることからB評価とした。

【要望・意見】
○　アクティブ・シニアの窓口で、趣味やサークルの機会・体験ができることを市民へ周知すれば、口コミでの拡がりが期待できる。
○　敬老会イベントなどを各自治会で実施する時に、活動団体やボランティアの紹介・連携もあるので、プロジェクトの中で敬老会等の既存事業をどのようにしたらいいかを検討するのも1つの手法である。
○　アクティブ・シニア応援窓口と各種施策（ボランティアセンターや市民活動センター等）の連携は、多様な世代への社会参加の促進として相乗効果が期待できる。生涯学習課、市民活動推進課等の多くのセクションや福祉施設、社会福祉協議会との連携や情報交換に努めること。
○　高齢者施策の所管課が、高齢者の地域等での活躍をサポートしていることを知らない市民も多いと思うので、積極的な周知に努めること。
○　自分らしく生涯現役でのセカンドキャリア形成支援（現役世代へのアプローチ）は、取り組みの意義を市民の方に訴えていただくとよい。
○　高齢者が定年までに学んできたことを人に伝える役割になってもらえれば、高齢者の存在理由ができる。（高齢者にできることをやってもらうことが大切）
○　高齢の就労希望者に期待することを簡単にまとめて情報提供すれば、さらに、市民理解が深まる。
○　労働の大変さの生の声を伝えることや就労状況における男女差（どんな仕事に就いてる等）の情報提供も必要。

【進捗状況A～D】
A：順調に推移した(目標達成又は進捗している)　　B：一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）　　D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）

資料４－１　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	支える2　あやせ流健康習慣定着プロジェクト	主管課	健康づくり推進課	関係課	地域包括ケア推進課 保険年金課

取り組みの方向	健康的な食習慣の定着化

取り組みの展開

	STEP1：	STEP2：	STEP3：
内容	健康的な食習慣、生活習慣病の普及・啓発を強化すると共に、健康的な食事メニューの開発支援等を進めます。	健康的な食事を提供する飲食店等との連携や生活習慣に溶け込んだ仕組みづくり等、アプローチの拡大を図ります。	不規則な食生活になりがちな働き盛り世代への徹底的なアプローチ強化とともに市民の健康的な食習慣の定着を図ります。

関連実施計画	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況
	あやせ流健康習慣定着プロジェクト（食事編）	C	あやせ流健康習慣定着プロジェクト（食事編）	C		

①　主管課による一次評価	STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	C	STEP3の進捗状況	
	【1．達成状況】 様々な年代に普及啓発するため、成人対象の糖尿病等予防教室や、妊婦とパートナー対象の母親父親教室、子育て世代が集まる乳幼児健診等の各種事業内で、市管理栄養士による講話（ミニ講話含む）を実施。 また、厚生労働省支援「健康的な食習慣・食環境認証制度」の申請事業者のメニュー開発や申請手続きを支援し、申請しやすい環境を整えている。		【1．達成状況】 「健康的な食事・食環境認証制度」については、R3年度申請事業者1店舗が認証され（県内で3店舗）、R4年度にも1事業者申請し、R5.8月に認証される予定。 認証店舗については、市もチラシ（認証制度のQRコード付き）を配布し、普及啓発に努めている。		【1．達成状況】	
	【2－1．課題】 計画策定後に新型コロナウイルス感染症が流行し、各種教室が中止されたり講義を短縮したりと的確な実施が難しくなった。 また、コロナ禍で飲食業全般が経営困難な中、認証を希望する事業者が少ない。		【2－1．課題】 認証制度の規定上、該当する飲食店に協力を得るのが難しい。また、一度認証された飲食店が認証を継続するためには費用が発生する。 ロコモティブシンドロームやフレイル等の予防について各課連携が図れていない。		【2－1．課題】	
	【2－2．課題への対応】 R5.5月より新型コロナウイルス感染症が5類となったことから、各種教室等での講話を再開している。今後は食育の一環として、地場産物普及啓発時に健康的な食事についてのチラシ等を配布したり、多様な世代にアプローチを検討する。また、「健康的な食事・食環境認証制度」の説明を事業者ごとにきめ細かく対応し、認証事業者を増加させていく。		【2－2．課題への対応】 SNSを活用したプッシュ型情報提供（認証店舗のPR、健康的な食事の普及啓発）について検討する。認証事業者に付加価値がつく支援体制をつくることで、協力事業者増をねらっていく。また、フレイル測定会が拡充され、オーラルフレイルを含めた知識の普及啓発できるようになり、関係課の連携により、対象者への改善に向けた介入ができるようになった。		【2－2．課題への対応】	

②　企画課による二次評価	STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	C	STEP3の進捗状況	
	コロナ禍で停滞していた食習慣・食環境認証制度や糖尿病の予防教室等について、取り組みを再開し健康的な食習慣の仕掛けづくりを引き続き進めていくこと。		ロコモティブシンドローム及びフレイル予防については、「栄養」「身体活動」「社会参加」の取り組みを組み合わせることが有効であるため、関係課と更なる連携を図りながら健康的な食習慣の定着化を進めること。			

③　外部評価	STEP1～3の進捗状況　　（評価：　C　）
	【評価コメント】 行政施策をどう立案、実行すればいいのかという根本的なところを考えていく必要があり、進捗が遅れていることからC評価とした。 【要望・意見】 ○　問題と課題は何なのか、何が原因なのかを抽出整理し、そこを分析した上で、どのようにアプローチすれば、課題が解消し問題の解決につながるのかを科学的・客観的に議論する必要がある。政策のアプローチは、目的と目標を立てることで、その目標に向かって何をするかが政策になる。目標が達成されると目的の完成になり、その目的を実現するために目標を立てる必要がある。委員会の総論としての評価はCでよいと思うが、目標達成が難しい可能性があり、私個人の評価としてはDとしたい。 ○　子育て、産業振興、健康づくりといった各種施策につながりがある。健康的な食習慣のスマートミール、観光の豚すきメンチを市役所の食堂で食べれるようにしてはどうか。子供達の食習慣は、数十年後の健康状態に影響してくる。 ○　日常生活圏域、又はエリアを狭めた中でモデル地区を作ってみるのはどうか。生活習慣で気をつけること（綾瀬流健康づくり）を実践してもらい、他の地区と比較検証してみるとよい。モデル地区等があると、身近な問題の取り組みとして、地域へ波及しやすい。 ○　ライフステージ（子どもから高齢期）に応じたアプローチが重要で、予算的な面を含めて費用対効果を考え、優先順位をつけて、施策を検討していく必要がある。

【進捗状況A～D】
A：順調に推移した(目標達成又は進捗している)　　B：一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）　　D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）

資料４－１　　総合計画進行管理シート

戦略PJ名	支える2　あやせ流健康習慣定着プロジェクト	主管課	健康づくり推進課	関係課	スポーツ課

取り組みの方向	健康的な行動習慣及び運動の定着化

取り組みの展開

	STEP1：		STEP2：		STEP3：	
内容	健康状態の見える化による意識啓発強化とともに、ナッジ効果を応用した健康的な行動習慣への誘導手法の検討を進めます。		運動無関心層への運動となる歩行習慣の定着促進とともに、ナッジ効果を応用した健康的な行動習慣の普及を図ります。		健康的な行動習慣や歩行習慣を健康スポーツ等に移行する仕組みづくりを進めることで、運動習慣の定着を図ります。	
関連実施計画	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況	実施計画事業名	達成状況
	あやせ流健康習慣定着プロジェクト（行動変容編）	C	ノルディック・ウォーク普及事業	C		
			ホームタウンチームSC相模原・ノジマステラ神奈川相模原との連携事業	C		
①　主管課による一次評価	STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	C	STEP3の進捗状況	—
	【1．達成状況】 ナッジ効果（人が自分自身にとってより良い選択を自発的に取れるよう手助けする手法）を応用した仕掛けづくりとして、がん検診や乳幼児健診通知の封筒に生活習慣を改善する情報につながる市ホームページのQRコードを印字し、自然と健康情報へ誘導するとともに、健康度見える化コーナーに適切な歩幅がわかる足型シートを設置した。		【1．達成状況】 ノルディック・ウォーク普及事業やSC相模原によるサッカー教室等のスポーツ教室コロナ禍においても感染対策を実施しながら継続的に実施できている。		【1．達成状況】	
	【2－1．課題】 新型コロナウイルス感染症の流行により、成人対象の糖尿病等予防教室や健康度見える化相談会等の各種事業が中止となった。順次事業を再開しているが、参加者が少ない状況が続いている。 本庁舎階段を活用した歩行習慣の仕掛けを検討したが機器の設置や調光等の課題があり実施が難しい。		【2－1．課題】 ノルディック・ウォーク事業やスポーツ教室等は継続開催しているが、糖尿病等予防教室や健康度見える化相談会等でスポーツ事業との連携した事業展開ができていない。アフターコロナの中でこれまでとは異なった視点で歩行習慣の定着に向けた検討が必要である。		【2－1．課題】	
	【2－2．課題への対応】 健診結果を基に発送する高血圧等予防教室への勧奨ハガキに、前年度開催した講義内容をQRコードにして印字し教室への参加を促していく。 また、市内商業施設に足型シートを設置し、日常生活に溶け込んだ行動習慣の誘導を図る。		【2－2．課題への対応】 ノルディック・ウォーク事業については参加率向上のために開催日時を見直すとともに、県のマイME－BYOカルテ（アプリ）を活用した歩行習慣の定着化に向けた取組みについて検討、実施していく。また、関係各課と連携し効果的な周知について見直しを図っていく。		【2－2．課題への対応】	
②　企画課による二次評価	STEP1の進捗状況	B	STEP2の進捗状況	C	STEP3の進捗状況	
	ナッジ効果等を活用し、生活の中で運動習慣の意識づけや習慣化を図るための仕掛けづくりができている。引き続き健康状態の見える化による意識啓発強化を進めていくこと。		生活習慣病予防とスポーツ事業の連携やアプリの活用は、健康無関心層への健康的な行動習慣の定着化のアプローチとして相乗効果が期待できるので、引き続き検討・実施を進めること。			
③　外部評価	STEP1～3の進捗状況　　（評価：　C　）					
	【評価コメント】 行政施策をどう立案、実行すればいいのかという根本的なところを考えていく必要があり、進捗が遅れていることからC評価とした。 【要望・意見】 ○　問題と課題は何なのか、何が原因なのかを抽出整理し、そこを分析した上で、どのようにアプローチすれば、課題が解消し問題の解決につながるのかを科学的・客観的に議論する必要がある。政策のアプローチは、目的と目標を立てることで、その目標に向かって何をするかが政策になる。目標が達成されると目的の完成になり、その目的を実現するために目標を立てる必要がある。委員会の総論としての評価はCでよいと思うが、目標達成が難しい可能性があり、私個人の評価としてはDとしたい。 ○　日常生活圏域、又はエリアを狭めた中でモデル地区を作ってみるのはどうか。生活習慣で気をつけること（綾瀬流健康づくり）を実践してもらい、他の地区と比較検証してみるとよい。モデル地区等があると、身近な問題の取り組みとして、地域へ波及しやすい。 ○　ライフステージ（子どもから高齢期）に応じたアプローチが重要で、予算的な面を含めて費用対効果を考え、優先順位をつけて、施策を検討していく必要がある。					

【進捗状況A～D】
A：順調に推移した（目標達成又は進捗している）　　B：一定の進捗がある（目標達成に向け一定の進捗がある）
C：進捗が遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）　　D：進捗が大幅に遅れている（目標達成が難しい可能性がある）